

2022年度第1回契約監視委員会議事要旨

1. 日 時:2022年9月12日(月)13:30~15:50
2. 場 所:JAXA東京事務所 地下階 B101、B102、B103 会議室
各拠点のTV会議端末拠点及びTeams
3. 出席者:横山委員長、大久保委員、長沢委員、田澤委員、三宅委員、小林委員
(※大久保委員はTeamsによるリモート参加)
4. 審議概要:
 - (1)2021年度第4回契約監視委員会議事要旨の報告及び2021年度契約監視委員会活動報告
事務局より前回委員会議事要旨及び2021年度契約監視委員会活動報告について報告があり、了承された。
 - (2)2021年度第4回契約監視委員会アクションアイテムの報告
「2022年度調達等合理化計画案における集計データの誤りについて」
調達部より、資料3をもとに、再発防止として、作業者のアカウントに必要な権限を付与するとともに、誤りが発生した原因として調達部に付与された権限によってダウンロードのデータ範囲に違いが生じる仕様になっていることが説明され、システム操作マニュアルに注意事項を記載することが報告、了承された。
 - (3)2022年度調達等合理化計画の実施状況について
調達部より、2022年度調達等合理化計画に基づく第1四半期までの随意契約や一者応札・応募の実績と、物品・役務の合理的調達に関する取組実績等について説明があった。委員からは、企画競争の一者応札の割合が高いことについて、第2四半期以降も引き続き監視をするようにとのコメントがなされた。また、委員から、部材高騰の対応について具体的な対応基準・手順の整理の時期について指摘があり、9~10月に調査を実施し年内に整理する方針であるとの回答があった。
 - (4)民間競争入札(市場化テスト)実施事業「システム技術(安全・ミッション保証技術)支援」の契約に係る自己評価について(意見聴取)
調達部より、資料5をもとに、令和4年3月末時点における本業務の実施状況について、自己評価を行った結果が説明され、総務大臣に提出するにあたり、評価方法について契約監視委員会からの意見聴取が行われた。委員から市場化テスト3期目に向けて引き続きコスト削減を進めるとともに、市場化テストによる改善があったか検証し自己評価することが必要であるコメントがなされた。

(5) 2022年度第1四半期に新規に締結した契約の点検

2022年度第1四半期に新規に締結した随意契約及び一者応札・応募となった案件のうち、契約金額が大きいもの、複数の仕様書受領があったものを中心に点検を受けた。その結果、問題となる契約はなかった(個別案件ごとの点検内容は別紙のとおり)。

その他

・次回の委員会は、1月19日(木)に開催することとした。

第1回 2022年9月12日

競争入札	一般競争	価格評価	6件	<ul style="list-style-type: none"> ①-1 2022年度 筑波宇宙センター他5件電力需給契約 ①-2 2022年度 角田宇宙センター東・西地区他1件電力需給契約 ②-1 2022年度～2024年度宇宙機機械系技術の研究等に係る運用支援業務 ②-2 2022年度～2024年度宇宙機電気系技術の研究等に係る運用支援業務 ③ 2022年度 JAXAnet ネットワーク機器の保守 ④ 調布航空宇宙センター空力5号館極超音速風洞圧縮機室改修工事(2022)
競争性のない随意契約			8件	<ul style="list-style-type: none"> ①-3 2022年度上齋原スペースガードセンター新レーダー他1件電力需給契約 ①-4 2022年度臼田宇宙空間観測所(臼田地区)他1件電力需給契約 ①-5 2022年度種子島宇宙センターの電気需給(高圧)(その1) ①-6 2022年度種子島宇宙センターの電気需給(高圧)(その2) ①-7 2022年度種子島宇宙センターの電気需給(低圧) ①-8 2022年度小笠原追跡所の電気需給 ①-9 2022年度あきる野実験施設電力の需給契約 ①-10 2022年度沖縄宇宙通信所電力需給契約

企画競争	1件	⑤ 新たな日本人宇宙飛行士候補者の募集・選抜支援(英語試験)
------	----	--------------------------------

主な質疑等は以下のとおり。

- ① 1 2022 年度 筑波宇宙センター他5件電力需給契約
 2 2022 年度 角田宇宙センター東・西地区他1件電力需給契約
 [一般競争・価格評価方式]
 3 2022 年度 上齋原スペースガードセンター新レーダー他1件電力需給契約
 4 2022 年度 臼田宇宙空間観測所(臼田地区)他1件電力需給契約
 5 2022 年度 種子島宇宙センターの電気需給(高圧)(その1)
 6 2022 年度 種子島宇宙センターの電気需給(高圧)(その2)
 7 2022 年度 種子島宇宙センターの電気需給(低圧)
 8 2022 年度 小笠原追跡所の電気需給
 9 2022 年度 あきる野実験施設電力の需給契約
 10 2022 年度 沖縄宇宙通信所電力需給契約

[競争性のない随意契約]

本件は、筑波宇宙センター他5件電力需給契約を点検対象としたが、全事業所の電力需給契約の契約状況と2023年度の契約方針を含めた説明がなされた。

筑波宇宙センター他5件電力需給契約については、仕様書受領は3者あったが、燃料価格の高騰や供給量不足といった電力市場の急激な変化により応札は1者となった。再エネの普及による老朽火力発電所の廃止、コロナ禍での供給量不足、世界的な LNG 不足等の情勢下では、事業者のリスクが大きすぎ競争入札が成立する環境ではなく、2023年度についても状況の改善は見込めないことから、現在契約している事業者と調整して2023年度以降の電力を確保しなければならない状況にあることが示された。これらの状況を踏まえ、2023年度の契約は最終補償約款単価より有利な単価で契約できることを前提とした参加者確認公募を行う方針であることが説明された。仮に入札で不調となって最終補償約款で契約すると年1.6億の支出が増えるとのこと。

委員からは、入札が不調となった場合に最終補償約款単価で提供する義務がある者と改めて随契の交渉を行う可能性があるのかという質問があり、2割増しとなる最終補償約款単価での契約となる可能性が高いとの説明がなされた。なお、現在契約中の全事業者と調整を行っており、筑波他5件、あきる野、沖縄、上齋原については随契での調整が出来ている一方、角田、能代、名古屋、臼田については現時点で供給可能という回答を得られていないとのこと。

- ② 1 2022 年度～2024 年度宇宙機機械系技術の研究等に係る運用支援業務
2 2022 年度～2024 年度宇宙機電気系技術の研究等に係る運用支援業務

[一般競争・価格評価方式]

本件は、宇宙機開発等に向けた基盤的研究に不可欠な試験設備等について、「機械系」又は「電気系」に類型化し、維持運用・実験支援等の業務を一括で調達し設備運用業務を合理化するものである。

本契約は、2017年度までは試験設備毎の個別契約だったものを一括契約とするとともに、今年度より単年度契約をやめ、2022年度から2024年度の複数年契約にして企業の人員確保の初期コストを回収しやすくすることで一者応札の解決を期待したもので、調達等合理化計画における重点取組の「一括調達の促進」、「同種の契約手続きの集約」に沿った対応であるとの説明があった。

委員からは、工夫はしているものの複数年にしても一者応札であったことから、業務枠を拡大して JAXA 側の工数を含めた効率化を図ることでコスト削減を目指すことを検討してはどうかとの意見があり、担当者からは、発注内容の拡充、コスト低減策を含めて検討を進めていきたい旨の発言がなされた。

- ③ 2022 年度 JAXAnet ネットワーク機器の保守

[一般競争・価格評価方式]

本件は、JAXA の共通情報システムの基盤となるネットワークで、JAXA の各拠点のネットワークとそれらを接続する JAXAnet WAN およびインターネット接続システム等で構成されている機器の保守を実施するものである。

本契約は、整備費用の平準化のため事業所単位で時期をずらし整備及び保守を行っていた契約を、当初の保守契約の終了後に機器単体の保守のみを巻き取って一括契約したものである。保守対象機器には複数のメーカーの製品が混在しておりメーカーサポート切れのものも含まれているため、整備業者でもメーカーでもない第三者が行う保守契約が必要となる。一者応札の要因として、全国20拠点の全てをカバーできることや、メーカーが混在する保守対象機器約 2000 台に対応できること、メーカー保守期限内のものと期限切れのものどちらにも対応できることを併せ持つ業者は限られていることが挙げられるが、一括契約には、故障等対応時の運用の簡素化や、保守サービスの均質化にメリットがあり、契約を分割すれば非効率になるとの説明が担当者よりあった。

委員からは、市場化テストでは契約を分割することでの競争性導入を推奨していることもあり、外部からの分割すれば競争相手が出てくるのではという指摘に対し、JAXA 側の作業効率化も含めてコスト削減効果があるとの定量的な評価とともに品質確保も問題なく行われているとの整理が重要であるとコメントされ、担当者からは、

今回の調達に向けて検討を進めていきたい旨の発言がなされた。

④ 調布航空宇宙センター空力5号館極超音速風洞圧縮機室改修工事(2022)

[一般競争・価格評価方式]

本件は、極超音速風洞設備はマッハ数5～10の極超音速流を作り出す試験設備であり、圧縮機設備は整備されて50年以上使用され老朽化が進行し保守対応の限界を超えているため旧圧縮機設備の基礎を撤去し、更新する圧縮機のための新設基礎を設置するものである。

本契約は、圧縮機以外の機械装置を維持したまま既設の高圧ガス設備が近接している非常に狭い環境での工事を実施するというのが特徴としてあり、工事を安全に進めるうえで高圧ガスに関する知識や経験、資格を持ち合わせた技術者を有した実績のある会社で施工させる必要性がある。また、当初、圧縮機の更新は既存基礎を再利用することを前提にしていたが、基礎が想定以上に老朽化が進行していたことや、新設備には適合しないことが判明したため別途調達することとなる等、入札参加者に一定の条件を加える必要があった。工期についても必要な期間を確保したところであるが、設備側業者の据付スケジュールに合わせる必要があり、応札者側の望むものではなかったかもしれないとの説明が担当者よりあった。

委員からは、基礎が想定以上に老朽化が進行していたという評価は据え付ける段階で初めて気づかざるを得なかったのかという質問があったほか、設備の契約に合わせるためどうしても間に合わない場合は緊急の随意契約を考え得る案件ではないかという意見があり、担当者からは、施設部に早い段階で声かけをしてもらい現場確認を行うこと、緊急性があつて作業に間に合わさなければならない場合は緊急の随意契約ということも選択肢として検討する旨の発言がなされた。

⑤ 新たな日本人宇宙飛行士候補者の募集・選抜支援(英語試験)

[企画競争]

本件は、13年ぶりに新たな宇宙飛行士候補者の選抜試験において円滑な意思疎通が図れる英語能力を評価するための英語試験を実施するものである。

本契約は、企画競争で参加各社から企業のノウハウを活かしつつ、コロナ禍での安全かつ確実な試験方法等を提案させて、より良い提案に対しては加点をするなどを考慮したが、仕様書受領は7社、説明会参加は4社に対し、最終提案提出に至ったのは1社だけであった。一者応札となった要因については、オンライン試験実施は加点要素であったにもかかわらずオンライン試験を実施することが重視され実績のない企業が辞退したことがピアリングから判明している。

委員からは、企画競争はいろいろな企画を出してもらうことが重要で、オンラインを制約のように受け取られたのであればコミュニケーションをしっかりと図るべきであ

ること、世間ではオンライン試験はかなり前から行われているので、オンライン試験を制約のようにとられないようしっかりと対策を検証していただく必要があること等がコメントされ、また、調達部に対し調達等合理化計画の中で企画競争の一者応札率が上がっていると説明があったことを踏まえ、本件を含め企画競争で一者応札となった要因の検証を行うことが重要であるとコメントされた。担当者からは、今後の調達に向けて検証する旨の発言がなされた。

以 上